

安全確保を第一としたまちづくり

## 釜石市全体の安全確保について

市の機構改革を行い、「危機管理監」を新設。  
今年度から防災・危機管理の責任体制を強化・一元化

また、随時、専門家（群馬大・片田教授）の指導を仰ぎつつ、安全確保を最優先としたまちづくりを推進

当面の対応として、市内各所に避難看板を設置するなどの、＜防災の見える化＞を推進

今後とも、避難路・避難場所の設計に際しては、住民の皆さんの声と専門家のアドバイスを融合

# (参考) 復興についての有識者・専門家からの アドバイス及びその反映状況(主なもの)

所属・氏名	アドバイス	反映状況
<b>大西隆氏</b> ・ 東京大学教授 ・ 市アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土地利用については、産業系・住居系といった区分や建築制限などの条件を設け、浸水区域も上手に活用すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津波シミュレーションを踏まえ、安全確保を第一としつつ区域ごとの活用(ゾーニング)や建築制限を検討</li> </ul>
<b>片田敏孝氏</b> ・ 群馬大学教授 ・ 市アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津波シミュレーションの結果を過信するのではなく、多重の防災対策が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多重防御、ハード・ソフト両方を活用した安全第一のまちづくりを検討。</li> </ul>
<b>伊東豊雄氏</b> ・ 建築家 ・ 市復興ディレクター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の住民との対話を重ねながら、臨海グリーンベルトや斜面復興公営住宅など、生活と釜石らしさを追求すべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域別の懇談会を重ねて実施。</li> <li>・ 臨海グリーンベルトや斜面災害公営住宅の検討を重ね、財源について国と折衝中。</li> </ul>
<b>小野田泰明氏</b> ・ 東北大学教授 ・ 市復興ディレクター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北九州市は国・県・企業との付き合い方が上手。北九州の知恵をどんどん借りるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土地利用・水産・保健福祉といった複数の部局に応援職員の派遣を依頼・実施。</li> <li>・ 企業誘致や再生可能エネルギーの活用についても相談。</li> </ul>
<b>遠藤新氏</b> ・ 工学院大学准教授 ・ 市復興ディレクター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東部地区の全体像を検討しつつ、全体を牽引する先行的事業が大事。商業・公共施設・魚河岸が良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業・公共施設・魚河岸を3つのフロントプロジェクトとし、具体的な検討を加速。</li> </ul>

## (参考) 廃棄物(がれき)・被災建物への対応

今後、可燃物6万トン、不燃物12万トンの最終処理が必要

今年度前半には被災建物の解体、今年度中には魚市場などの大規模公共施設の解体を終える予定

建物の基礎は、今年度中に処理

